

調査の進め方・報告書のまとめ方の項目（未定稿、2011年5月21日）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1．文献調査（サーベイ調査）2．現地踏査3．ヒアリング調査4．アンケート調査、実態調査5．調査委員会、計画策定委員会、中間報告6．報告書作成 |
|---|

1．文献調査、サーベイ調査

（1）入手

誰でも見て置かなくてはならないもの

知られていない文献の探索と入手

ポイントとなる資料（ヒアリングでも、アンケートでも同じこと）を見つけたら、それをめぐって論旨を組み立てる

例：ペイエリアブランド創出調査 文献一覧 6．報告書作成参照

ポイント文献 章立て、表（第3章 3/36）

（種類）

- ・過去の論文、報告書
- ・書籍
- ・新聞・雑誌
- ・統計書
- ・地図

（探索方法、入手場所）

- ・調査依頼先（クライアント）
- ・図書館（大学図書館、公共図書館、省庁図書館、団体図書館、OECD 東京センター図書室）
- ・書店、古本屋
- ・書籍関連サイト：amazon、「日本の古本屋」等（また、ここから図書館へ）
- ・現地（地方調査、海外調査ではこれが重要）
- ・ウェブ
- ・ヒアリング先に教えてもらう（「その点についてまとめた資料はありませんか？」）
- ・ヒアリング相手が参照している資料を問いつめる

（入手方法）

- ・買う、もらう

- ・借りる（コピーして返す）
- ・ダウンロード
- ・コピー

（資料請求）

- ・欲しい資料の一覧表をつくっておく（場合によっては事前に渡しておく）

（２）読み込み、整理

- ・通読、拾い読み、まえがきや後ろ書きは必須
- ・抜き書き、箇条書き
- ・カード化
- ・内容を表で整理 例：バイエリア調査 第3章 27/36
- ・年表づくり

（３）データ整理 - 講義のトピックスで紹介 -

- ・統計解析
- ・グラフづくり
- ・表の再整理

2 . 現地踏査

（１）踏査方法

- ・自分で回る（徒歩、自転車、自動車、電車、運転手を雇う）
- ・現地の人に連れていってもらおう
- ・ヒアリングのときに、現地を見せてもらう（地域、農地、工場、業務対象者）

（２）写真撮影

- ・報告書に使う場合と単なる記録用、記念の場合
 例：バイエリア調査 第2章 5/26
- ・使うかどうか分からなくても取っておく（デジカメ時代）

（３）その他

- ・精通者やヒアリング先を見つける
- ・地元の本屋や図書館、資料館などを回る
- ・ついでに観光もする

3．ヒアリング調査

(1) ヒアリングの種類

個別ヒアリング

企業、農家、市民

グループヒアリング

有識者ヒアリング

(2) ヒアリングの方法

アポどり（自分で電話、知悉者に依頼）

場所：先方に出掛ける、ヒアリングする場所に来てもらう

調査票の用意（特に複数人で調査する場合）

調査項目だけ

細かい聴取内容、数字、地図（農地配置）

権威づけ

紹介、学術目的、公共目的（市長名など）

ヒアリング先への配慮

秘密保持、おみやげ、公共目的、調査内容のフィードバック、情報提供（バーター）

通訳

すぐれた通訳ならこちらの意図を理解して自発的に聞いてくれる

高度テクニック

外で聞いたこと、前にヒアリングした相手の情報が本当か聞く

4．アンケート調査、実態調査

5．調査委員会、計画策定委員会、中間報告

6．報告書作成

(1) 論文、報告書の体裁

体裁にかかわる細かい点は小笠原（2009）参照

(2) 注釈、引用、参考の記載方法

・「従来型」と「近年型」

【参考文献】

・小笠原喜康（2009）「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書